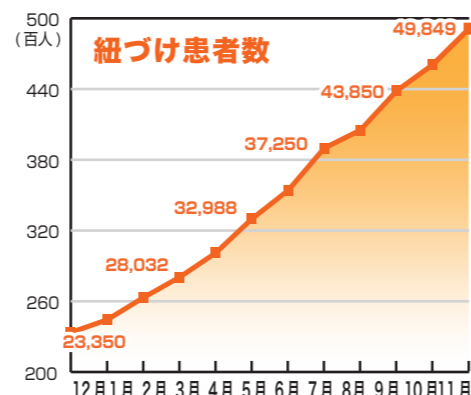
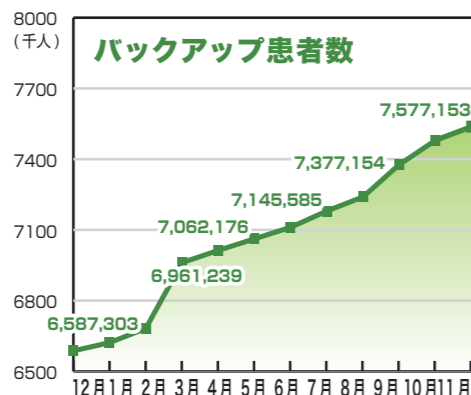


データ推移

バックアップ患者数は前月比+92,930人、紐付け患者数は前月比+3,043人となりました。両データ共に、順調な増加傾向にあります。



電子カルテやお手持ちのパソコンで

MMWIN システムをご利用頂けます！

多くの参加施設様では、MMWIN がご提供した専用パソコンで MMWIN システムをご利用頂いておりますが、設置スペースが無いため、電子カルテやレセプト用のパソコンで代用できないかとの質問や要望を頂いております。お使いの電子カルテもしくはレセプトベンダー様のご承認といくつかの設定が必要となりますが、技術的にも可能であり、実際既に多くの施設様で所有されているパソコンをご利用頂いていることを改めてお伝えいたします。

電子カルテやレセコンのパソコンをお使いになることで、専用パソコンを起動する手間や煩雑さが軽減され、MMWIN システムをよりシームレスにご利用頂くことができます。

ご興味がある施設様は是非 MMWIN 事務局にお問い合わせください！

* 施設内ネットワークの設定やパソコンへの電子証明書インポートや各種設定等が必要であり、パソコンのスペックにも一定の条件があるため、施設内のご事情やお手持ちのパソコンの機能・性能によってはご利用いただけない場合があります。

以前よりお知らせしておりますが、MMWIN 通信を郵送の他に、各施設の MMWIN 使用者に直接メールで送付しております。また、ユーザーズミーティング開催のお知らせ等も送付致しますので、貴施設の MMWIN 端末使用者の方のメールアドレスを何件でも構いませんので、可能な範囲でお知らせください。

『koho@mmwin.or.jp』まで、施設名と可能であれば担当者様名をご記入の上、ご登録をお願い致します。右記の QR コードより、メールを送付いただくことも可能です。既にご連絡くださった施設様のアドレスは登録しておりますので、直接配信を開始しております。ご登録、誠にありがとうございました。

合わせて、ホームページにて、MMWIN 通信や、宮城県医師会報掲載ページのバックナンバーを公開しております。是非、ご覧ください。



MMWIN

発行：一般社団法人 みやぎ医療福祉情報ネットワーク協議会

〒980-8633 仙台市青葉区大手町 1-5 宮城県医師会館 6 階 URL: <http://www.mmwin.or.jp>
 サポートセンター TEL: 022-399-6880 サポートセンター E-mail: support@mmwin.or.jp
 事務局 TEL: 022-395-6312 FAX: 022-395-6313 E-mail: office@mmwin.or.jp

当協議会からのメールを受信できない場合がございますので、『@mmwin.or.jp』からのメールを受信できるように設定してください。
 『MMWIN』、『みんなのみやぎネット』は、一般社団法人みやぎ医療福祉情報ネットワーク協議会の登録商標です。
 ※本誌の収録内容の無断転載、複写、引用、改変等を禁じます。



エム エム ウィン
MMWIN® 通信
 みんなのみやぎネット® NEWS

2017
 Dec.
 vol.48
12

発行：みやぎ医療福祉情報ネットワーク協議会

かわむらこどもクリニック様

理事長・院長 川村和久先生
 青葉区 高松



理事長・院長 川村和久先生

1. 病診連携について活用事例を教えてください

私は、25 年前に「お母さんの不安・心配解消」を理念に開業し、理念に基づく様々な活動を続けています。理念を持って診療に当たるだけでなく、お母さんに安心感を与えることを心掛けています。今年の夏に、他院で乳児健診を受けたお子さんの状態を心配した祖父母の勧めで、飛び込みで診察に来られたお子さんがいました。すぐに先天性の病気が疑われ、直ちに大学病院へ紹介入院となりました。入院すると時間がある限り、理念の実践のため入院中の母子を訪れます。目的は不安心配の解消と、症例の経過を学び、主治医と連携することです。入院してすぐに訪れましたが、事前に MMWIN で情報を確認し、検査結果などを把握していました。そんな情報によって、「もう少し入院長引きそうだね。頑張ってるね！」など励ますことができました。

また、定期的に MMWIN を覗いていると検査数値も回復していく傾向が見えてきました。そう思った矢先お母さんから退院の予定の電話があり、退院当日に「お陰様で退院しました。」とわざわざご報告に来てくれました。私は、そのお母さんに会ったのはたった数回だけですが、退院挨拶に来た頃にはずっと以前からの知り合いのようでした。お母さんの不安を解消し患者さんと連携するツールとして MMWIN を活用することができました。小児科では、主に急性期のお子さんを紹介するケースが圧倒的に多く、入院も 3 日から 1 週間程度ですが、このようなケースはでも MMWIN が活用できれば良いと思っています。すでに、宮城県内の大規模病院が MMWIN に加入されました。今後、「病診連携」がしっかりと確立されて、病院がイニシアチブをとって牽引してくれることを期待しています。

2. 画像連携が今年度中に実装される予定です。小児科で情報連携に期待することはどのような事ですか？

小児科ではあまり画像を重視して連携するケースは少ないですが、先述したように、お母さんの心配・解消という点で、検査数値や画像を示すことで「除外診断」に活かすことができます。言葉では伝えられない事の「見える化」と言えるかもしれません。

今後、大規模病院での画像診断だけでなく、星稜クリニックとの「診診連携」にも取り組んでいきたいと考えています。

また、情報システムを活かしてリアルタイムに情報を整理・提供するという意味では、小児科にとって役立つのは、感染症の症例数やワクチン接種率というような情報を MMWIN を介することでリアルタイムに情報処理する事です。従来の手間を省きかつ正確な情報が得られると思います。

これらの情報は医療従事者だけでなく一般の方々にも情報提供できるのではないかと考えています。インフルエンザ発症源や蔓延地域などを情報提供できれば一般の方々にも役立つしそのような情報も提供できれば予防接種率の向上に繋がるのではないのでしょうか？

3. 今後の MMWIN に期待することはどのような事ですか？

このような国の補助事業は、MMWIN に限らず、補助金がなくなったら終了というケースが少なくありません。他地域の医療連携の事例や様々な協議会などでも話題に出ますが、果たしてうまくいっているのでしょうか？ MMWIN は宮城県単位で取り組んでいますので、日本でも最も大きな医療連携の単位と言えます。また、ほとんどの大規模病院が加入しましたので、1つのシステムを介して他に類をみない連携が出来上がったと言えます。

今後は、どのように運用していくかという事ですが、まずは、操作性の向上です。常にバックグラウンドで MMWIN が立ち上がっており、すぐに情報が見られる事や、他施設とのコミュニケーションツールを活用して予約の取得ができたりすることができれば便利だと思います。また、医師の学習ツールとしても活用できるのではないのでしょうか？先述の感染症のサーベランスだけでなく、診療情報や新薬情報などの情報も得られれば役立つと思います。

次に費用対効果です。誰が利益享受者かという事を念頭に置き、患者さん（お母さん）に役立てられる診療情報や、お母さんの心配・不安解消に役立てられる情報が得られれば今後の利活用に取り組んでいきたいと思っています。幅広い連携や診療所の費用負担軽減のためにも、さらに多くの医療機関に参加いただくことも重要かと思っています。



クリニック外観

東北労災病院様ブース設置のご紹介

仙台医療圏では、運用サポートや患者さんの加入促進のため、東北大学病院様及び仙台医療センター様で MMWIN ブースを設置しておりましたが、MMWIN の更なる活用を進め、病病連携や病診連携、更には薬局様や介護福祉施設様も含めた地域包括ケアシステムを促進するために、11月13日より東北労災病院様でも MMWIN ブースを設置しました。



労災病院ブースの様子

東北労災病院様では、ブース設置に先立ち、全体説明会等を実施する事で今回の取り組みにつきご理解をいただき、先生方やコメディカルの方からも患者さんやご家族の方へ MMWIN のご紹介をいただくと共に、東北労災病院様の近隣の薬局様等でも MMWIN のチラシを配布いただいております。更に、MMWIN をご活用いただく職員数も増加しており、病院全体での MMWIN の利活用を進める方針です。

今後は、東北労災病院様及び近隣施設、関連施設を含め MMWIN 利活用を促進し、地域包括ケアシステムのより一層の実現を目指して参ります。

第5回宮城県地域医療学会が開催されました



中山雅晴理事

平成 29 年 11 月 5 日（日）勝山館にて、第 6 回宮城県地域医療学会が開催され、宮城県医師会・会長をはじめ、日本医師会・副会長や日本薬剤師会・会長など県内外の医療関係者約 250 名がご出席されました。

ランチョンセミナーにおいて、当協議会 中山雅晴理事より、MMWIN についてご講演頂きました。

MMWIN の現状や参加施設が 702 施設（当日時点）となったこと、参加施設様のご協力の下、ここ 2 年間で情報連携同意患者数が飛躍的に増加していること等をご報告頂きました。

また、画像連携システムの導入・システムリプレイスや機能改善・総務省 EHR 高度化事業対応など、有益な地域医療介護連携システムの確立に向けた今後の取り組みについてもご紹介頂きました。

仙台市老人福祉施設協議会様 各支部会での MMWIN のご紹介

先月の MMWIN 通信でも掲載させていただきました、仙台市老人福祉施設協議会様への MMWIN のご紹介に関し、同協議会様の庄子会長、折腹副会長のご尽力もあり、各支部で MMWIN のご説明を実施する機会をいただきました。泉支部、青葉西支部会でのご説明では、同支部の方々に対し、MMWIN 活用による医療介護連携の姿および費用対効果や業務負担の軽減等施設様のメリット等をご説明致しました。今後も各支部会でのご紹介の機会を頂戴しておりますので、取り組みを鋭意進めさせていただければと考えております。仙台市老人福祉施設協議会様につきましては、9 月の理事会を皮切りに、10 月の全施設長会議でのご説明や、各支部でのご説明等を継続させていただいており、特に医療的観点・経営的観点のメリットや現場での MMWIN 導入後のイメージを感じていただいているものと思料致します。

このような活動により、庄子会長、折腹副会長、理事、監事の御管轄の社会福祉法人様をはじめ、多くの会員施設様から入会をいただいております。

仙台市で拡大しつつある介護福祉施設様と医療機関様等との連携を宮城県全域に広げるべく、県内の介護福祉施設様に MMWIN をご理解いただき、医療介護連携をサポートする情報インフラとして MMWIN をご活用いただき、お役に立てるよう、より一層、活動等に尽力したいと考えております。

仙南圏 すずらん薬局様

今回は柴田町船岡のすずらん薬局にて、管理薬剤師 塩入紀代美様に、MMWIN の活用状況、今後への期待等についてお話をお伺いさせて頂きました。



管理薬剤師 塩入紀代美様

みやぎ県南中核病院で加入活動を行っております。また、近隣の金上病院でもブースを開設して7月から10月まで加入活動を実施して多くの患者さんに御参加いただきましたが、患者さんからのカード提示状況はいかがでしょう？

先日、みやぎ県南中核病院の患者さんからカードの提示があり、お薬の情報を見る事が出来ました。患者さんの紐付けもスムーズ行えました。また当店は、角田市からの患者さんも多く、お薬手帳を見ると金上病院からお薬をもらっている方もいらっしゃいますので、今後、カードを提示される患者さんが増えると良いと思います。



すずらん薬局外観

日々の業務における MMWIN のメリットはどんなものでしょうか？

患者さんにお薬の説明をする際、診療内容や検査の結果を踏まえながらお話ができれば、患者さんに寄り添った対応ができ、他の医療機関との連絡が必要な際にも MMWIN は便利だと思います。

今後 MMWIN に期待されることはありますか？

みやぎ県南中核病院と近隣の病医院の両方に通院されている患者さんも多いのですが、まだカードの提示が少ない状況です。大きな病院で加入された患者さんの中には、診療所や調剤薬局ではカードの提示が必要ないと思われる患者さんもいるかもしれません。

今後、患者さんに MMWIN に対してさらにご理解をいただくことで、参加施設の間でも MMWIN の活用が進むことを期待します。



受付の様子

編集後記

後記：すずらん薬局様の近隣の施設である、船岡今野病院様をはじめ、近隣の施設でも利活用が進むよう、努めてまいります。貴重なお話しを頂きまして有難うございました。（三浦）